

令和4年度 事業報告

(2022年4月1日～2023年3月31日)

本年度における会員現況と主な事業内容を以下項目別に報告する。

1. 会員状況

会員種別	2022年度			参 考	
	2022. 4. 1 現在数 (A)	2023. 3. 31 現在数 (B)	年度内の増減 (B-A)	2022. 3. 31 現在数 (C)	前年度末 との対比 (B-C)
名誉会員	23	23	0	23	0
終身会員	215	209	△6	197	12
正会員	2,729	2,655	△74	2,717	△62
学生会員	807	810	3	820	△10
(合計)	3,774	3,697	△77	3,757	△60
賛助会員	221社 (304口)	221社 (307口)	0社 (3口)	217社 (300口)	4社 (7口)
特殊会員	70社 (84口)	64社 (75口)	△6社 (△9口)	70社 (84口)	△6社 (△9口)

2. 定款・規則等の制定・改正

- (1) 学会活動貢献賞受賞予定者選定手続 (改正) (2022. 10. 21)
(2) 環境音響研究賞受賞予定者選定手続 (改正) (2023. 1. 27)
(3) 関西支部規則 (改正) (2023. 3. 24)

3. 機関誌の刊行

- (1) 日本音響学会誌
本期間は毎月1日(1号は12月25日)を発行日とし、次の12冊を刊行した。

78巻4号～79巻3号(2022年4月～2023年3月)

	巻		78巻								79巻			計	
	号		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2		3
	本文ページ		54	78	58	64	66	74	64	86	44	84	42	76	790
主 な 論 文 ・ 記 事	巻頭言											2			2
	音叉		2			2			2						6
	追悼文											3			3
	論文		21 (2)	12 (1)	16 (2)		12 (1)	9 (1)	24 (3)			9 (1)		9 (1)	112 (12)
	技術報告											8 (1)		8 (1)	16 (2)
	総説												9 (1)		9 (1)
	研究速報		7 (2)	8 (2)			4 (1)	4 (1)	8 (2)					4 (1)	35 (9)
解説(やさしい解説, 小特集を含む)	40 (11)	44 (7)	34 (4)	38 (6)	27 (4)	40 (7)	36 (5)	38 (7)	25 (4)	54 (8)	25 (4)	46 (7)	447 (74)		

主 な 論 文 ・ 記 事	連載講座					8	8	9	8	10				43	
	会議報告 (シンポジウム/活動報告)	6 (1)				2 (1)						1 (1)		9 (3)	
	研究発表会報告					1						1		2	
	特別講演					8								8	
	選奨記事・紹介記事					15	1							16	
	書評	1 (2)												1 (2)	
	コーヒーブレーク	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
	78巻総目次									4					4
	AST目次		1		1		1		1		1		1		6
	AST abstract		1		1		2		2		2		3		11
	学会記事等	2	1	1	3	2	3	1	2	2	2	3	2		24
	編集後記	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	会告	12	27	35	17	19	91	27	37	29	17	65	17		393
広告	9	9	9	11	9	9	9	9	9	9	11	11		114	
発行部数	4250	4250	4250	4250	4250	4250	4250	4250	4250	4250	4250	4250	4250	51000	
小特集タイトル	※1	※2		※3		※4		※5		※6		※7			

注 1) 欄中の () 内数値は編数。

2) 会告の内容は、研究会開催案内、音響関係国内並びに国際会議、その他周知記事である。

※1 コロナ禍における研究発表会

2 音声対話システムにおける“不気味の谷”を超えるには

3 「騒音」, 「低周波音」そして「高周波音」

4 強力超音波の安全な利用に向けて ー人体への影響・作用とその計測方法ー

5 建築物の遮音性能制御の新たな着目点や試み

6 ヒトと動物の音声の感情・情動伝達

7 第二言語習得・テストの目指すべき姿とその実現に向けた音声言語処理技術の可能性

(2) 英文論文誌 Acoustical Science and Technology

本期間は、2022年5月、7月、9月、11月、2023年1月、3月の各1日を発行日とし次の6冊をオンラインジャーナルとして刊行した。

なお、AST誌への投稿システムをJSTの協力により、“ScholarOne”システムを利用した。

Vol. 43 No. 3~Vol. 44 No. 2 (2022年5月~2023年3月)

Vol.	Vol. 43				Vol. 44		計
No.	3	4	5	6	1	2	
本文ページ	42	21	56	53	47	107	326
Paper	20 (2)	9 (1)	28 (3)	9 (1)	16 (2)	61 (7)	143 (16)
Technical Report	4 (1)		7 (1)	19 (3)	12 (2)	27 (3)	69 (10)
Acoustical Letter	15 (4)	8 (2)	18 (5)	7 (2)	15 (4)	16 (4)	79 (21)
Translated Paper				10 (1)			10 (1)
和文誌英文目次	3	2	2	2	2	2	13
和文誌論文等内容梗概		2	1	1	2	1	7
Vol. 43 総目次					5		5

注) 欄中の () 内数値は編数。

(3) 科学技術振興機構(JST)が主催する「科学技術情報発信・流通総合システム(J-STAGE)」において、日本音響学会誌及びAcoustical Science and Technology誌(AST誌)を公開した。

なお、日本音響学会誌の J-STAGE での公開は 6 か月後としている。なお、日本音響学会誌の目次情報は、発刊後 1 か月程度で公開した。

(4) 編集委員会の国際化に係る取り組み

本学編集委員会において、AST 誌の国際的な評価の向上をはかる活動の一環として、Acoustical Science and Technology 誌 (AST 誌) の広報に特化した Web ページを公開した。また、日本音響学会の Twitter に AST 誌の掲載論文等の紹介、論文等の投稿募集について掲載した。

4. 研究発表会及び関連イベントの開催

(1) 春季研究発表会は、2022 年 3 月 9 日、10 日、11 日の 3 日間、遠隔会議システム (Zoom) と Learning Management System (LMS) の Moodle を利用して開催した。参加登録者は、1,253 名であった。

申込件数は 551 件、このうち、スペシャルセッションは 10 テーマ、「教育支援のための音声処理技術」、「人工内耳と聴覚の順応」、「遮音・吸音における新しい計測方法の展望」、「音楽と電子楽器 – 歴史と最先端 –」、「非破壊検査における AI (人工知能) と ICT (情報通信技術) 活用の動向」、「音声言語と脳神経科学 – 基礎から計算論的研究まで –」、「軟骨伝導デバイスの課題 – 補聴器の臨床応用と軟骨伝導評価機器の開発 –」、「高臨場感オーディオと録音再生」、「2020 東京オリンピック・パラリンピックを振り返る」、「スポーツの視点からみたスポーツと音の可能性に関するバトンリレー」で実施した。

春季研究発表会においてオンライン開催を確実に実施するため、2022 年春季研究発表会遠隔開催実行委員会 (及川 靖広委員長) を組織した。

なお、賛助会員のポスター展示を実施し、15 社が展示を行った。

(2) 秋季研究発表会は、2022 年 9 月 14 日、15 日、16 日の 3 日間、北海道科学大学 (札幌市) で実施した。参加者は、1,033 名であった。

申込件数は 615 件、このうち、スペシャルセッションは 6 テーマ、「主観的な品質や類似性を反映した音声合成技術」、「発声や演奏での感覚フィードバック」、「新部門「オーディオ」とその関連技術」、「音楽の機能的な利用」、「危機にある言語・文化や記録について考える」、「スポーツと音 その 8」で実施した。

秋季研究発表会において現地開催を確実に実施するため、2022 年秋季研究発表会実行委員会 (松崎 博季委員長) を組織した。

ビギナーズセミナーは、2022 年 9 月 14 日に「音響収録・分析のエッセンス」をテーマとして開催した。技術動向ビューは、2022 年 9 月 14 日に「産業界における音響技術開発」をテーマとして開催した。

また、賛助会員のポスター展示を実施し、9 社が申込、延べ 17 社が展示を行った。

なお、2022 年秋季研究発表会から「オーディオ部門」を新たに設けた。

2022 年秋季研究発表会より第 1 回研究発表会からの開催回数を併記した名称とし、第 148 回 (2022 年秋季) 研究発表会とする。

(3) 春季並びに秋季の発表分野、講演件数及び特別講演は次表のとおりである。

分野別		春季	秋季
講演件数	音響教育	8	8
	超音波 (水中音響/熱音響技術)	66	62
	電気音響	100	116
	オーディオ	—	10
	騒音・振動	20	37
	建築音響	36	68
	アコースティックイメージング	11	13
	聴覚	37	34
	聴覚・音声	13	20
	音声コミュニケーション	42	47
	音声 A	43	48
	音声 B	52	62

音声A・B		
音楽音響	27	37
音支援(音バリアフリー)	9	3
音のデザイン	18	12
スペシャルセッション (春季11テーマ)	69	—
スペシャルセッション (秋季6テーマ)	—	38
計	551	615

		春季	秋季
特別講演	演題・講師	きつねたちのいるところ 写真家 井上 浩輝 氏	北海道科学大学の医工連携研究 北海道科学大学・学長 川上 敬 氏

(4) コミュニティセッションの開催

- ・第148回(2022年秋季)研究発表会において、学術委員会及び研究発表会準備委員会の共催で「分野融合を目指した新しい部門設置と講演申込方法の変更」をテーマとするコミュニティセッションを開催した。

(5) 前日企画

- ・2022年春季研究発表会の前日企画は、3月8日(火)13:00~17:00、次の3つのイベントをオンラインで開催した。
 - ア. 技術動向レビューは、海外在住の研究者及び音を扱う実験・研究機器等を幅広く手掛ける企業の方を講師として実施した。
 - イ. 活性化・若手育成委員会(峯松 信明委員長)では、学生・若手フォーラムと協力して「音響学会 研究発表会への誘い ~学会とはどんなところ?~」をテーマとして実施した。
 - ウ. 賛助会員と学生との交流会は、11社社の賛助会員が参加して実施した。
 - エ. 当学会「学生・若手フォーラム」では、「音響学 若手研究者たちの夜会」と称し、ナイトセッションを実施した。

(6) 特別企画(前日企画)

- ・第148回(2022年秋季)研究発表会では、9月13日(火)に、「言語や文化のダイバーシティを考えよう!」をテーマとする特別企画(前日企画)を北海道科学大学において開催した。

(7) 研究発表会ポータルサイト

2022年春季研究発表会及び第148回(2022年秋季)研究発表会では、遠隔開催実行委員会、現地実行委員会並びに応報・電子化委員会が主導し、研究発表会ポータルサイトを作成した。ポータルサイトでは、発表スケジュール(口頭発表中一覧、口頭発表会場別、ポスター会場別)、イベント・行事等の案内、特設サイトの紹介、賛助会員ポスター会場、広告出稿企業一覧等を掲示した。

なお、第148回(2022年秋季)研究発表会では、会場へのアクセス等参加者への便宜を図るため北海道科学大学の実行委員会においてポータルサイトを作成していただいた。

(8) 研究発表会実行委員会の開催

2022年春季研究発表会遠隔開催実行委員会及び2022年秋季研究発表会実行委員会では、それぞれ、複数回の実行委員会を開催した。

5. 研究会の開催

- (1) 本年度に実施した各研究会の活動概要は次表のとおりである。

研究会名	委員長 (敬称略)	開催回数	発表件数	備考
超音波	中村 健太郎	9	97	電気音響, アコースティックイメージング研究会との合同開催の分を含む
騒音・振動	高野 靖	10	60	アコースティックイメージング, 建築音響研究会, 音のデザイン調査研究委員会との合同開催分を含む
電気音響	梶川 嘉延	6	176	聴覚, 音楽音響, 音声, 超音波研究会, 音響教育委員会との合同開催の分を含む
音声	北村 達也	4	34	電気音響, 聴覚, 音楽音響, 音声コミュニケーション研究会, 音響教育委員会, 北陸支部との合同開催の分を含む
聴覚	入野 俊夫	8	94	電気音響, 音楽音響, 音声, 音声コミュニケーション研究会, 音響教育委員会との合同開催の分を含む
建築音響	豊田 政弘	10	48	騒音・振動研究会との合同開催の分を含む
音楽音響	三浦 雅展	9	84	電気音響, 聴覚, 音声研究会, 音響教育委員会との合同開催分を含む
アコースティックイメージング	土屋 隆生	5	40	超音波, 騒音・振動研究会との合同開催の分を含む
音声コミュニケーション	荒井 隆行	4	22	音声, 聴覚研究会との合同開催分を含む
音響教育委員会	河原 一彦	1	14	電気音響, 聴覚, 音声, 音楽音響研究会との合同開催の分を含む
合計		66	669	

(2) 騒音・振動, 聴覚, 建築音響及び音楽音響研究会資料の年間購読の請求事務は学会事務局で代行した。

6. 国際交流

(1) 国際会議の開催・準備等

2023年8月20日から23日に幕張メッセ(千葉県)で開催するInter-Noise2023の開催準備に協力した。

(2) 当学会が加盟団体となっている国際音響学会(ICA), 国際騒音制御工学会(I-INCE)の活動に協力した。なお, 国際音響学会(ICA)では, 次期理事の選挙が行われ, 当学会推薦の安藤彰男氏が当選した。

(3) 西太平洋地区音響学会(WESPAC)に協力した。

(4) 韓国音響学会と共催するジョイントセッションの開催準備に協力した。

7. 音響規格の調査・作成

(1) 音響規格委員会(今泉 博之委員長)において, 当学会が担当する電気音響及び音響一般に関するIEC/TC 29(国際電気標準会議第29専門委員会(電気音響))及びISO/TC 43(国際標準化機構第43専門委員会(音響))の国際標準の審議及び調査研究等を行った。

なお, 音響規格委員会は, IEC/TC 29専門委員会, ISO/TC 43専門委員会, ISO/TC 43/SC 1専門委員会, ISO/TC 43/SC 2専門委員会, 及びISO/TC 43/SC 3専門委員会で構成する。

(2) 当学会で原案作成を行った日本産業規格(JIS)に関して5年ごとの見直し作業を行った。

8. 調査研究委員会の活動

(1) 道路交通騒音予測手法の調査研究

(株)高速道路総合技術研究所との共同研究により, 「道路交通騒音の予測精度向上に関する

研究」を実施した。道路交通騒音調査研究委員会（岡田 恭明委員長）が作業を実施した。

(2) 音バリアフリーに関する調査研究

音バリアフリー調査研究委員会（中村 健太郎委員長）において、聴覚障害者のための会話システムの研究、デバイスの研究・開発・実用化及び普及を目的とした活動を行った。

(3) 音のデザインに関する調査研究

音のデザイン調査研究委員会（高田 正幸委員長）において、製品音、サイン音、サウンドスケープ、音環境等の音のデザインについて、包括的に調査研究を行い、音のデザインの必要性、可能性、将来性を発信することを目的とする活動を実施した。

(4) 非常用屋外拡声システムに関する調査研究

非常用屋外拡声システム調査研究委員会（佐藤 洋委員長）において、伝達用屋外拡声システムの設計・性能等に関する調査研究を行った。

(5) 軟骨伝導に関する調査研究

軟骨伝導の基本メカニズムとその応用技術等について検討する軟骨伝導調査研究委員会（細井 裕司委員長）において、軟骨伝導応用機器の普及、軟骨伝導音の校正法の規定等に関する調査研究を行った。

(6) 生物音響に関する調査研究

生物音響に関する研究の進歩と研究母体の拡大を図り、生物音響学分野の研究成果の発表、情報交換、連絡連携を目的とする生物音響調査研究委員会（力丸 裕委員長）において、調査研究を行った。

(7) 高臨場感オーディオに関する調査研究

高臨場感オーディオに関連する研究分野において、横断的な議論を行う機会を提供し、当該分野の更なる発展を目的とする高臨場感オーディオ調査研究委員会（亀川 徹委員長）を設置し、調査研究を行った。

(8) スポーツ音響に関する調査研究

音響学とスポーツ競技と音のかかわりやその競技場の音環境に関し、関連する分野の研究所が議論できる場を設けることを目的とするスポーツ音響調査研究委員会（上田 麻理委員長）を設置し、調査研究を行った。

9. 学術委員会関連委員会の活動

(1) 音響教育に関する調査研究

音響教育委員会（河原 一彦委員長）では、音響学の教育と教育研究及びその普及を主たる目的として委員会活動を行っている。

なお、2022年度は、「音の科学教室」を開催した。

・2022年8月28日(日)に国立科学博物館において、「電気を使わないスマホ拡声器を作ろう！」をテーマとして開催した。

10. 選 奨

(1) 功 績 賞

音響に関する学術又は関連事業に対し、特別の功績があると認められる方に贈られるもので、第46回功績賞受賞者は、片桐 滋、河井 康人、力丸 裕の3氏に決定した。

(2) 日本音響学会論文賞

音響学に関し学術上及び技術上貢献するところが大きい研究業績を本会会誌に発表した方に贈られるもので、学会誌77巻1号～12号、78巻1号～12号並びにAST誌Vol. 42 No. 1～ No. 6, Vol. 43 No. 1～ No. 6に掲載された論文中から優秀な論文を選定した。

第63回日本音響学会論文賞受賞論文（敬称略）

ア. 日本音響学会論文賞佐藤賞

○「音楽が乳児の心理生理状態と母親のあやし行動に与える影響」

日本音響学会誌 77 巻 10 号(2021)

吉村 麻美(玉川大学)、渡辺 謙(日本電信電話(株)／早稲田大学)、

河西 奈保子(東京都立大学), 梶川 祥世(玉川大学),
麦谷 綾子(日本電信電話(株)／日本女子大学)

イ. 日本音響学会論文賞古井賞

- 「Nonlinear physical modeling sound synthesis of cymbals involving dynamics of washers and sticks/mallets」

AST 誌 42 巻 6 号(2021)

鮫島 俊哉(九州大学)

(3) 環境音響研究賞

環境音響学の発展に貢献した、主として建築音響分野又は騒音分野に関連する一連の研究を対象とするもので、会員から推薦のあった候補者から優秀な者を選び、2023 年春季研究発表会選奨会場(2023 年 3 月 16 日)で本賞を贈呈した。

第 14 回環境音響研究賞受賞者(敬称略)

- 大嶋 拓也(新潟大学)／平栗 靖浩(近畿大学)

「実在地域の騒音伝搬予測に関する一連の研究」

(4) 独創研究奨励賞 板倉記念

音響学に関する独創的な研究を行った若手会員の方に贈られるもので、会員から推薦のあった候補者から優秀な者を選定した。

第 18 回独創研究奨励賞 板倉記念 受賞者(敬称略)

- 石川 憲治(日本電信電話(株))

研究名:「先端光学技術を用いた音場計測に関する研究」

- 堀口 翔太((株)日立製作所)

研究名:「話者数未知下における発話重複を考慮した話者ダイアライゼーションに関する研究」

(5) 音声合成研究奨励賞吉田賞

当学会春季及び秋季研究発表会において、音声合成に関わる講演発表を 4 回以上行った正会員又は学生会員に贈呈する賞で、会員から推薦のあった候補者から優秀な者を選定した。

第 1 回音声合成研究奨励賞吉田賞 受賞者(敬称略)

- 高道 慎之介(東京大学)

(6) 粟屋 潔学術奨励賞

有為と認められる新進の研究・技術者の方に贈られるもので、2022 年春季研究発表会の講演申込者並びに秋季研究発表会の講演者のうちの本賞受賞対象者から優秀な者を選定した。

第 52 回粟屋 潔学術奨励賞受賞者(敬称略／2022 年春季研究発表会, 5 名)

- 青野 浩平(室蘭工業大学)

「小径穴付き円筒からの噴出流を伴う浮揚時の保持力測定」

- 岩見 貴弘(九州大学)

「再生核を用いた高速なインテンシティ推定」

- 田中 達宏(京都大学)

「球面デザインを用いた等方音場のモデル化」

- 法野 行哉(名古屋工業大学)

「非周期性指標を考慮したニューラルボコーダの学習」

- 吉永 司(豊橋技術科学大学)

「声帯 2 質点モデルに対する 3 次元圧縮性数値流体シミュレーション」

第 53 回粟屋 潔学術奨励賞受賞者(敬称略／2022 年秋季研究発表会, 5 名)

- 大村 眞朗(富山大学)

- 「振幅包絡分布の時間変動解析における体動補正手法の検討」
- 加古 達也 (日本電信電話(株))
 - 「オープンイヤホン向け開口エンクロージャ構造のシミュレーション評価の検討」
- 木下 光太郎 (日本放送協会)
 - 「人声の距離減衰特性の聴取印象評価」
- 津國 和泉 (東京電機大学)
 - 「音源の指向性と位置誤差を考慮した等価音源を用いた初期室内インパルス応答のモデル化」
- 長岡 亮 (富山大学)
 - 「単一平面振動子を用いた Synthetic aperture imaging におけるスキャンピッチの影響に関する基礎検討」

(6) 学生優秀発表賞

春季又は秋季研究発表会において優秀な発表を行った学生会員に贈られるもので、2022年春季研究発表会並びに秋季研究発表会の講演者のうちの本賞受賞対象者から優秀な者を選定した。

第24回学生優秀発表賞受賞者 (敬称略/2022年春季研究発表会, 26名)

大村 瞬也(東京大学), 平光 啓祐(名古屋工業大学), 堀井 こはる(豊橋技術科学大学), 松浦 瑠希(早稲田大学), 近藤 恵(愛知県立大学), 野崎 悦(東京大学), 岩本 一真(同志社大学), 西城 耕平(早稲田大学), 田中 僚郎(早稲田大学), 中嶋 大志(東京都立大学), 長倉 知哉(九州大学), 任 逸(電気通信大学), 赤石 夏輝(早稲田大学), 山本 竣平(工学院大学), 神谷 優(神奈川大学), 曹 達(東京大学), 廣瀬 量子(東京大学), 鈴木 沙綺(東北大学), 瀬戸 駿(千葉大学), 矢野 達也(富山大学), 清水 鏡介(日本大学), 石原 一樹(上智大学), 中島 彩子(法政大学), 常 慶旻(上智大学), 辻 慎也(上智大学), 吉富 佑樹(九州大学)

第25回学生優秀発表賞受賞者 (敬称略/2022年秋季研究発表会, 27名)

辛 徳泰(東京大学), 坪倉 和哉(愛知県立大学), 中田 亘(東京大学), 松永 裕太(東京大学), 山下 陽生(神戸大学), 磯山 拓都(北陸先端科学技術大学院大学), 山本 絢子(和歌山大学), 有川 和志(東京大学), 今村 奏海(東京大学), 王 鋭(名古屋大学), 河村 隆生(東京都立大学), 重見 和秀(東京大学), 富田 佳秀(東京大学), 伊藤 陸人(早稲田大学), 黒川 哲(九州大学), 中島 美百合(東京大学), 三村 茉莉絵(神戸大学), 伊藤 美桜(日本大学), 関本 淳(山梨大学), 広崎 真早志(電気通信大学), 後藤 昌彦(早稲田大学), 加地 優太(千葉工業大学), 多湖 崇宏(名城大学), 日高 駿介(九州大学), 窪前 海斗(茨城大学), 佐藤 秀英(大阪大学), 久我 一輝(神奈川工科大学)

(7) 技術開発賞

音響に関する工学技術の進歩発展に特に貢献したと認められる本会賛助会員の代表者, 賛助会員所属の個人, グループに贈られるもので, 公募により推薦された候補の中から優秀なものを選んだ。

- 日本電信電話(株), NTT ソノリティ(株)
 - 「逆相音波の放射により音漏れを最小限に抑えるオープンイヤホンの開発」
 - 加古 達也, 千葉 大将(日本電信電話(株)),
 - 佐藤 広明, 岩瀬 潤, 小林 和則(NTT ソノリティ(株))
- 日本放送協会
 - 「音声合成を用いた AI アナウンスシステムの開発」
 - 栗原 清(日本放送協会)

(8) 学会活動貢献賞

本学会活動の活性化に多大な貢献があった若手の正会員又は学生会員を顕彰する目的で贈られるもので, 今年度は次の18名を選定した。

第10回学会活動貢献賞受賞者

- 有光 哲彦(中央大学／(株)フィート) [音のデザイン調査研究委員会の幹事としての貢献に対して]
- 伊佐 衣代((株)エーアイ) [研究発表会遠隔開催システムの構築に関する貢献に対して]
- 井本 桂右(同志社大学) [広報・電子化委員会の委員としての貢献に対して]
- 大隅 歩(日本大学) [アコースティックイメージング研究委員会の幹事補佐・幹事としての貢献に対して]
- 加古 達也(日本電信電話(株)) [電気音響研究委員会の幹事・副委員長としての貢献に対して]
- 鎌本 優(日本電信電話(株)) [高臨場感オーディオ調査研究委員会の幹事としての貢献に対して]
- 栗栖 清浩(TOA(株)) [非常用屋外拡声システム調査研究委員会の副委員長としての貢献に対して]
- 鮫島 俊哉(九州大学) [音楽音響研究委員会の幹事としての貢献に対して]
- 塩田 さやか(東京都立大学) [広報・電子化委員会の委員としての貢献に対して]
- 杉山 由希子(慶應義塾大学) [音声コミュニケーション研究会幹事としての貢献に対して]
- 西村 竜一(和歌山大学) [研究発表会遠隔開催システムの構築に関する貢献に対して]
- 原 直(岡山大学) [研究発表会遠隔開催システムの構築に関する貢献に対して]
- 牧野 康一(小林理学研究所) [編集委員会の幹事としての貢献に対して]
- 松井 淑恵(豊橋技術科学大学) [聴覚研究委員会の幹事としての貢献に対して]
- 丸井 淳史(東京藝術大学) [編集委員会の委員・幹事としての貢献に対して]
- 三浦 光(日本大学) [超音波研究委員会の委員長・副委員長としての貢献に対して]
- 森 大毅(宇都宮大学) [編集委員会の委員・副主査及び主査としての貢献に対して]
- 森川 大輔(富山県立大学) [広報・電子化委員会の委員としての貢献に対して]

(9) 音響遺産の認定

本学会プレゼンス向上を目的として、音響学及び音に関わる事象を「音響遺産」として認定する。今年は第4回音響遺産を認定した。

1.1. 講習会、講演会及びセミナーの開催

(1) 講習会（敬称略）

事業委員会（西村 明委員長）が今年度実施した講習会及び技術セミナーは以下のとおりである。

ア. 「研究・記録のための資料音の録音」（第188回技術講習会）

期 日：2022年6月11日 会場：オンライン(Zoom)開催
講 師：西村 明(東京情報大学)
受講者数：19名

イ. 「すっきり！わかる！音声言語処理と深層学習の最新知識(初級)」（第189回技術講習会）

期 日：2022年7月6日 会場：オンライン(Zoom)開催
講 師：小林 彰夫(筑波技術大学)
受講者数：13名

ウ. 「よくわからない音響信号解析の基礎」（第190回技術講習会）

期 日：2022年8月26日、29日 会場：オンライン(Zoom)開催
講 師：森勢 将雅(明治大学)
受講者数：26名

エ. 「HTMLとWeb Audio APIによる音アプリ制作」（第191回技術講習会）

期 日：2022年8月30日～31日 会場：全国家電会館
講 師：須田 宇宙（千葉工業大学）
受講者数：5名

オ. 「デジタル信号処理の基礎と応用」(第192回技術講習会)

期 日：2022年11月15日～16日 会場：オンライン(Zoom)開催
講 師：高橋 義典(工学院大学), 武岡 成人(静岡理科大学),
池田 雄介(東京電機大学)
受講者数：17名

カ. 「ゼロから始める波動音響シミュレーション -PythonでFDTD」
(第193回技術講習会)

期 日：2022年12月2日 会場：オンライン(Zoom)開催
講 師：豊田 政弘(関西大学)
受講者数：32名

キ. 「すっきり！わかる！音声言語処理と深層学習の最新知識」(第194回技術講習会)

期 日：2022年12月7日 会場：オンライン(Zoom)開催
講 師：小林 彰夫(筑波技術大学)
受講者数：7名

ク. 「総ざらい！深層学習に基づく音声合成を概観する -基礎から最新動向まで-」
(第195回技術講習会)

期 日：2023年1月25日 会場：オンライン(Zoom)開催
講 師：齋藤 大輔(東京大学)
受講者数：19名

(2) サマーセミナー

ア. 「音響学の基礎と最近のトピックス」(第23回サマーセミナー)

今回のサマーセミナーは、「ライトニングトーク」形式で開催した。

期 日：2022年9月1日 会場：オンライン(Zoom, Gather)開催
受講者数：64名

12. 出版事業

(1) 出版委員会(坂本 修一委員長)に属する3つのシリーズ編集委員会、音響テクノロジーシリーズ編集委員会(飯田 一博委員長)、音響入門シリーズ編集委員会(大川 茂樹委員長)、音響サイエンスシリーズ編集委員会(蘆原 郁委員長)において、それぞれ企画内容について審議した。

ア. 音響テクノロジーシリーズ

・聴覚・発話に関する脳活動観測(音響テクノロジーシリーズ25)(2022/09/16発行)

イ. 音響サイエンスシリーズ

・生体組織の超音波計測(音響サイエンスシリーズ23)(2022/05/11発行)

ウ. 音響入門シリーズ

・デジタル音響信号処理入門 -Pythonによる自主演習- (音響入門シリーズ B-4)
(2022/10/07発行)

(2) 音響用語辞典編集委員会(鈴木 陽一委員長)において、用語の選定作業を行い、編集作業を進めた。

(3) 音響学講座(全10巻)で2022年度に刊行されたのは次の3巻であった。なお、これらの3巻をもって音響学講座は全巻が刊行された。

- ・音楽音響(音響学講座9)(2023/03/06発行)
- ・音声(下)(音響学講座7)(2023/01/10発行)

・超音波(音響学講座 8) (2022/10/07 発行)

1 3. 学会電子化推進に関する活動

広報・電子化委員会(小澤 賢司委員長)において、学会ホームページの管理・運営、学会メーリングリストの発信及び研究発表会実行委員会に参画・協力し、オンライン開催、ポータルサイト作成協力等のシステム全般の管理・運営に協力した。

1 4. 学会活性化、若手育成に関する活動

活性化・若手育成委員会(峯松 信明委員長)において、ビギナーズセミナーの開催、学生・若手フォーラムと協力し学会の活性化を図る活動を行った。

1 5. 財務に関する活動

財務委員会(中村 健太郎委員長, 亀川 徹(会勢拡大担当), 戸井 武司(広告担当), 西川剛樹(産業連携担当))において、賛助会員、広告の増加策等会勢の拡大につながる諸策を実施し、財務の安定にむけた活動を行った。

- ・ 賛助会員入会のメリットの整理・追加を行い、入会の勧誘を行った。また、研究発表会ポスターセッションの空きコマを有効に活用するため、賛助会員にポスター展示の希望を募り、実施した。
- ・ 2022 年春季研究発表会において、当学会賛助会員と学生会員を対象として情報交換を目的とする交流会(オンライン開催)を実施した。

1 6. 寄付制度と学会活動活性化

2022 年度会費の請求に併せて名誉会員、終身会員、正会員にご寄付を募った。なお、拠出寄付金は、学会活性化に関する事業に資する目的で学会活性化積立資産等として積み立てた。

1 7. 通常総会の開催

第 56 回通常総会は、2022 年 5 月 21 日、オンライン開催により実施した。

なお、出席者は、121 名(うち議決権行使書の提出による出席 49 名)であった。また、オンライン開催の実施に関し、広報・電子化委員会がシステムの運営を担当した。

1 8. 理事会、役員会並びに委員会活動

(1) 理事会

2022 年度理事会は、2022 年 8 月を除く毎月開催し、計 11 回開催した。なお、9 月理事会は、北海道科学大学で、10 月、12 月は全国家電会館及びハイブリッドで開催、前記以外は、オンラインで開催した。

(2) 役員会

2022 年度役員会は、2022 年 8 月を除く毎月、計 11 回開催した。なお、開催様式は、理事会と同様であった。

また、日本学術会議からの依頼により、同会議次期会員及び連携会員について情報提供を行った。

(3) 企画委員会

2022 年度企画委員会(荒井 隆行委員長)は、2022 年 8 月を除く毎月、計 11 回開催した。なお、企画委員会は 10 月、11 月のハイブリッド開催以外は、オンラインで開催した。

(4) 編集委員会

2022 年度編集委員会(野村 英之委員長)は、2022 年 5 月、7 月、9 月、11 月、2023 年 1 月及び 3 月の計 7 回開催した。なお、編集委員会は全てオンラインで開催した。

(5) 学術委員会

2022 年度学術委員会(岩谷 幸雄委員長)は、2022 年 6 月、9 月、11 月、2023 年 3 月の 4 回開催した。なお、学術委員会は全てオンラインで開催した。

(6) 研究発表会準備委員会

2022年度研究発表会準備委員会(水町 光徳委員長)は、遠隔開催実行委員会、現地実行委員会と協働して、研究発表会の開催形式、次期開催大学等の選定について活動した。なお、研究発表会プログラム編成委員会は、6月、11月の2回開催した。

(7) 広報・電子化委員会

2022年度広報・電子化委員会(小澤 賢司委員長)は、2022年9月に開催したほか、学会活動で広報、電子化に関する事業に協力した。

(8) 事業委員会

2022年度事業委員会(西村 明委員長)は、2023年2月に開催した。

19. 他学協会等からの共催等依頼

区分	件数	摘要
共催	2件	(一社)日本機械学会ほか
協賛	32件	(公社)日本騒音制御工学会ほか
後援	2件	(一社)日本オーディオ協会ほか
計	36件	

20. 支部所属会員

(1) 関西支部

会員種別	2022年度			参 考	
	2022. 4. 1 現在数(A)	2023. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減	2022. 3. 31 現在数(C)	前年度末 との対比
名誉会員	5	6	1	5	1
終身会員	26	25	△1	24	1
正会員	440	410	△30	435	△25
学生会員	170	177	7	168	9
(合計)	641	618	△23	632	△14

(2) 東北支部

会員種別	2022年度			参 考	
	2022. 4. 1 現在数(A)	2023. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減	2022. 3. 31 現在数(C)	前年度末 との対比
名誉会員	4	4	0	4	0
終身会員	20	20	0	18	2
正会員	105	98	△7	106	△8
学生会員	53	61	8	54	7
(合計)	182	183	1	182	1

(3) 東海支部

会員種別	2022年度			参 考	
	2022. 4. 1 現在数(A)	2023. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減	2022. 3. 31 現在数(C)	前年度末 との対比
名誉会員	0	0	0	0	0
終身会員	23	22	△1	22	0
正会員	255	248	△7	254	△6
学生会員	69	72	3	73	△1
(合計)	347	342	△5	349	△7

(4) 九州支部

会員種別	2022年度			参 考	
	2022. 4. 1 現在数(A)	2023. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減	2022. 3. 31 現在数(C)	前年度末 との対比

名誉会員	1	1	0	1	0
終身会員	11	11	0	9	2
正会員	143	138	△5	144	△6
学生会員	53	64	11	54	10
(合計)	208	214	6	208	6

(5) 北陸支部

会員種別	2022年度			参 考	
	2022. 4. 1 現在数(A)	2023. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減	2022. 3. 31 現在数(C)	前年度末 との対比
名誉会員	1	2	1	1	1
終身会員	3	3	0	3	0
正会員	71	61	△10	70	△9
学生会員	57	52	△5	59	△7
(合計)	132	118	△14	133	△15

2 1. 支部の事業

(1) 関 西 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は、2022年4月、7月、11月、2023年4月に開催。

イ. 総会・研究会・支部研究発表会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	2022. 4. 25	オンライン (Zoom)	2021年度事業実施・決算報告 2022年度事業計画・予算審議 オンライン出席47名, 委任状242 通計289名(定足数95名)
講演会	2022. 4. 25	オンライン (Zoom)	「ユニバーサルデザインと聴 覚研究への期待」, 講師: 難波 精一郎 様(大阪大学名誉教授) 参加者: 46名
談話会(第32回音楽の科 学研究会)	2022. 5. 8	オンライン (Zoom)	申請者: 大澤 知恵(武庫川女子 大学) 発表件数: 8件 参加者 数: 47名
騒音・振動研究会	2022. 8. 18	ハイブリッド開催(近 畿大学東大阪キャン パス+オンライン)	申請者: 高野 靖(京都大学) 発表件数: 5件 参加者: 42名(現地20名, オン ライン22名)
アコースティックイメ ージング研究会	2022. 10. 6	同志社大学室町キャン パス寒梅館	申請者: 土屋 隆生(同志社大 学) 発表件数: 5件 参加者: 40名
第25回若手研究者 交流研究発表会	2022. 11. 26	同志社大学京田辺キャン パス 同志社ローム 記念館	ポスター発表50件 企業展示3件, 団体展示2件 参加者124名
談話会(日本音響学会 学生・若手フォーラムビ ギナーズセミナー in KANSAI ~すべての道は 音声対話に通ず~	2023. 3. 24	ハイブリッド開催(立 命館大学梅田キャン パス+オンライン)	申請者: 菅原 彬子(近畿大学) 発表件数: 6件 参加者数: 40名(現 地16名, オンライン24名)

ウ. 研究会開催補助

騒音・振動研究会, アコースティックイメージング研究会に実施した。

(2) 東 北 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は2023年3月にオンラインで、開催した。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	2022. 4. 27	オンライン開催	
第 1298 回学術講演会 (主催)	2022. 5. 25	オンライン開催	「超音波を用いた指向性および極在性を制御した音提示の試み」 講師 近藤 和弘 氏(山形大学) 来聴者 287 名
電気音響／聴覚研究会	2022. 8. 4 ～ 5	東北大学電気通信研究所	
2022 年度電気関係学会東北支部連合大会	2022. 8. 23 ～ 24	オンライン開催(現地開催中止)	発表件数 226 件, セッション数 29 件, 参加者 264 名, 企業展示の代替で「技術・製品紹介」, 賛助協力企業 5 団体, 特別講演「多賀城創建 1300 年にむけて」(瀬川 ちかこ氏(多賀城市埋蔵文化調査センター))
東北大学電気通信研究所一般公開 2022(後援)	2022. 10. 8 ～ 9	東北大学片平キャンパス	後援 5 学会, 情報通信研究機構, 4 教育委員会, 協賛 2 学会 訪問者数 1591 名
第 5 回東北地区音響学研究会	2022. 11. 30	多賀城市文化センター (ハイブリッド開催)	発表件数 12 件 参加者 37 名(現地 18 名, オンライン 19 名)
音楽音響研究会	2022. 12. 17	秋田大学手形キャンパス	
令和 5 年東北地区若手研究者研究発表会(共催)	2023. 3. 1	日本大学工学部	東北地区若手研究者研究発表会主催, 日本音響学会東北支部ほか 10 学会共催 講演件数 183 件(口頭 102 件, ポスター 81 件) 参加者 270 名

ウ. 若手研究者優秀論文賞

東北支部電気関係学会支部連合大会, 東北地区音響学研究会及び東北地区若手研究者研究発表会から, 所定の手続きにより審査を行った。その結果, 電気関係学会東北支部連合大会から 2 名, 東北地区音響学研究会から 2 名及び東北地区若手研究者研究発表会から 2 名の受賞者を決定した。

(3) 東 海 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は, 2022 年 4 月, 12 月, 2023 年 3 月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
2022 年度支部総会	2022. 4. 1	ウイंकあいち／オンライン	出席者 24 名
2022 年支部講演会	2022. 4. 1	ウイंकあいち／オンライン	「骨伝導知覚のメカニズム解明とコミュニケーション・デバイスへの応用」講師 中川 誠司(千葉大学)
騒音・振動研究会(後援)	2022. 5. 10	名古屋大学・減災館	参加者 28 名 講演 5 件
電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会	2022. 8. 29 ～ 30	オンライン開催	大会参加登録者 608 人 講演件数 338 件 音響学会関連発表企画 5 件(+パネルディスカッション), 一般 8 件

東海地区音声関連研究室修士論文中間発表会	2022. 10. 1	豊橋技術科学大学(オンライン開催)	参加者 204 名 講演件数 60 件
支部見学会	2022. 11. 5	トヨタ産業技術記念館	参加申込者 0 名につき中止
支部技術講習会	2022. 12. 8	オンライン開催	参加者 55 名
2022 年度優秀発表表彰式	2022. 12. 8	オンライン開催	表彰式出席者 6 名 役員会併催(13 名)
東海地区音声関連研究室卒業論文(中間)発表会(後援)	2022. 12. 10	オンライン開催	参加者約 100 名 講演件数 60 件

ウ. 学生会員発表奨励制度

東海支部が主催又は共催した修士論文中間発表会, 電気関係学会支部連合大会において優秀な講演を行った学生会員を対象として表彰した。今年は発表奨励 14 名, 優秀発表賞 6 名であった。

エ. 支部学会活動貢献賞

支部学会活動貢献賞は, 東海支部の活動の活性化に多大な貢献が認められるものを表彰するもので, 2022 年度学会活動貢献賞は, 橋本 佳氏(名古屋工業大学)に授与した。

(4) 九 州 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は, 2023 年 3 月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
第 75 回電気・情報関係学会九州支部連合大会	2022. 9. 16 ～ 17	オンライン開催	共催 講演件数 336 件, 参加登録 227 件, 企業協賛 4 件
アコースティックブートキャンプ(ABC-Q)	2022. 10. 9 ～ 10	九州大学	主催 参加者 一般参加学生 10 名, TA 院生 1, スタッフ 7 名 技術研修 2 件
建築音響/騒音・振動研究会	2022. 11. 9	九州大学	共催
第 16 回学生のための研究発表会	2022. 12. 3	オンライン開催	主催 発表件数 15 件
音のデザイン調査研究委員会/騒音・振動研究会	2022. 12. 12	九州大学	共催
聴覚研究会	2022. 12. 17 ～ 18	九州大学	共催
音楽音響研究会	2023. 2. 19	九州大学	共催
講演会	2023. 3. 26	九州大学	主催 演題「子供のための建築音響設計」 講師 川井 敬二先生 参加者 21 名
騒音・振動研究会	2023. 3. 27	九州大学	共催
支部総会	2023. 3. 26	九州大学	主催

ウ. 学生表彰

九州支部が主催又は共催した研究発表会, 研究会等における学生の発表を対象として応募者を募り特に優れたものを表彰した。2022 年度の表彰者は 5 名であった。なお, 表彰式は, 2023 年 3 月 26 日に支部総会に引き続き実施した。

エ. 支部学会活動貢献賞

支部学会活動貢献賞は, 九州支部の活動の活性化に多大な貢献が認められるものを表彰す

るもので、2022年度は、該当者がなかった。

(5) 北 陸 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は、2022年4月、6月、2023年4月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	2022. 4. 18 ～ 4. 25	メール審議	令和3年度事業報告・決算報告 令和4年度事業計画・予算 審議の上了承された
2022年度電気・情報関係 学会北陸支部連合大会	2022. 9. 3	金沢大学 (COVID-19の影響により オンライン開催)	音波・音響関係部門 講演22件(う ち招待講演1件) 参加者90名 学生優秀論文発表賞8件
高校生プレゼンテーシ ョンコンテスト2022 私のまちな音風景	2022. 11. 12	発表者オンライン 審査員対面(金沢工業大 学)	講演8件
電気音響/聴覚/EMM研 究会	2022. 11. 21 ～ 22	オンライン開催	講演19件(うち招待講演3件) 参加者数 11/21:58名 11/22:50名
超音波研究会	2022. 11. 29	大学コンソーシアム富 山	講演7件
音声研究会	2023. 1. 30	オンライン開催(県内発 表者のみ対面)	講演10件(うちデモンストレーシ ョン1件)

事業報告書の附属明細書

特に記載すべき重要な事項はありません。